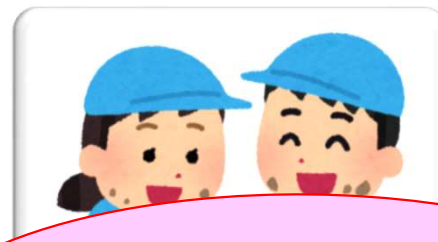


上天草市立小学校 令和7年度保護者学習会

- ・学校での勉強が楽しくなるために、
年長のうちにどんな子育てに気を付ければいいのか？



相談員の
立場から

上天草市教育委員会
自立支援相談員 辻川章

入学後の1年生から、どんな相談が多いの？

- 1学期末になると、急に学習の遅れが目立ち始める子があります。
- 席を立ててウロウロしたり、
- 先生が話をしているても、手遊びしたり、
- 徐々に、先生から注意を受けることが増えてきます。
- 中には、
- 朝からグズグズとしたり、「行きたくない」「頭が痛い」と登校を渋り始める子も



相談



学校での様子を伺うと、 不思議な「子どもの悩み」が浮き彫りになってきました。

・「出来る事」

- ・ 体育や図工などはとても楽しそうに勉強している。
- ・ 朝の挨拶もしっかりできて、友達との話も楽しそう。
- ・ 参観日も手を挙げて元気だった。
- ・ 『あいうえお』 もだいぶ覚えて、名前は書けるようになった。



不思議な「子どもの悩み」は？ 何に困っているの？

- ・「**困っているかもしれない事**」
- ・音読は、一文字ずつ追いかけるように読む。（時々、すぐに思い出せず止まる。）
- ・何とか読めても、書いている内容は分からない。
- ・頭に浮かんだ「自分の考え」を、ノートに書こうとすると固まってしまう。

- ・**困っていることは、
「読み書き」だったのです。**





- そもそも、子どもが**怠けている**では？
- **そのうち何とかなる**のでは？
- しかし、ここ10年程前から、
1年生の不思議な相談がとても増えたの
は事実だし・・・。

- 保育園ではなかったが、
学習に必要な力とは何だろう？

- 相談された子ども達は、
どうして「読み書き」に困っていたの
だろう？



入学すると
クラスという**集団**の中で
文字を使って考える『学習』が始まります。

きっとそこで何か**困る**ことがあるのでしょう。

では、
「文字を使った学習に必要な力」
とは何でしょうか？



それは、
おしゃべりの言葉」と
「読み書きの言葉」を
つなげる力す。



この、つなげる力を

おんいん

「音韻意識」と言います。

- 「音韻意識」が育ってないと読み書きで困る??
- それ?? どういう意味???



- 「え~~~~! (; ° □ °)」
- 今「あ」「い」・・・「お」を、頑張って教えているのに!
- それじゃ、ダメなの??
- そもそも、私が子どもの頃には、「音韻」なんて聞いたこともなかったよ! なんなのよそれ~



「おしゃべり」が上手なのに、
「読み書き」に苦労する
「音韻意識」の不思議を知るために

まずは、
「ことば」がどのように
育つかを調べてみましょう。

～1歳ごろ



つながります。

その言葉の「音」と「意味」が

最初は、
実物を見て



2歳～3歳

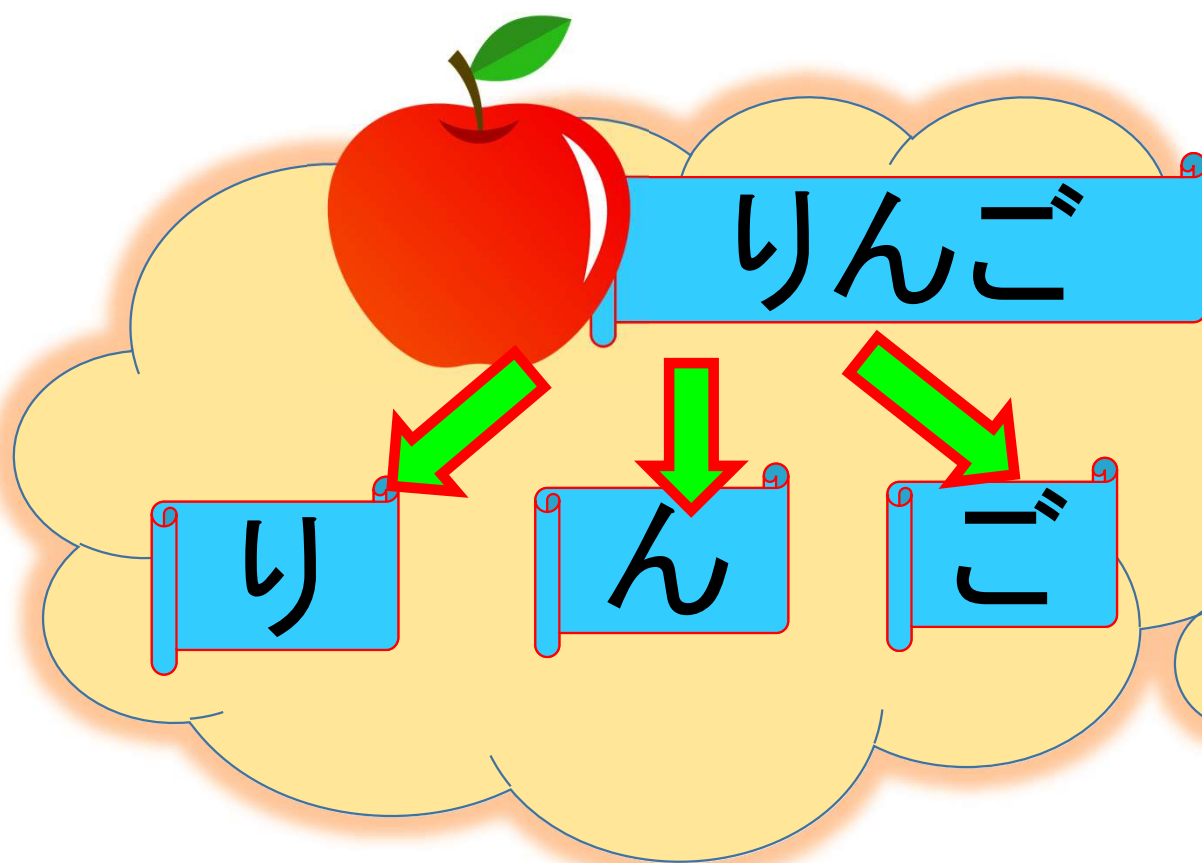
うん、
食べる！

りんご
食べる？

「話し言葉」は個人差が
ありますが、大人との
「おしゃべり」を通して、
育っていきます。

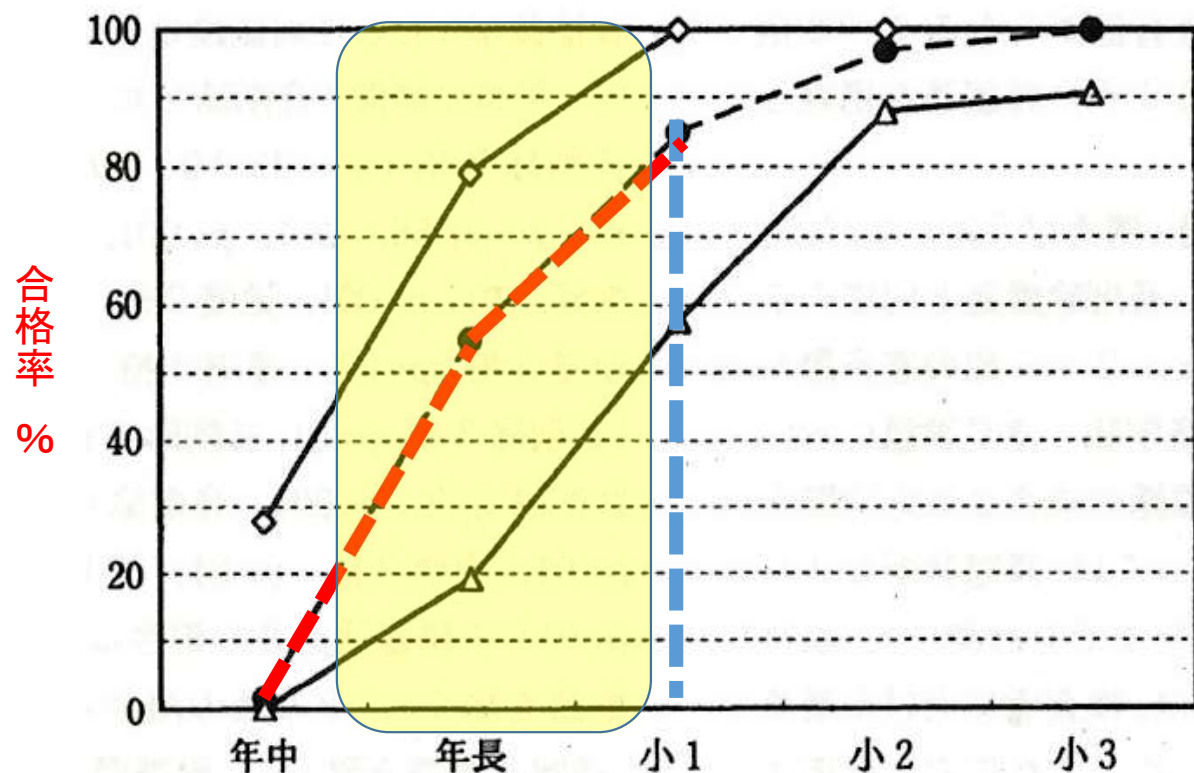


やがて、
実物を見なくても
その言葉の「意味」が分かり
「会話」の力へと発達します。



さらに、5～6歳で
音韻意識が育ちます。

- 「りんご」と聞いた言葉を、**り** **ん** **ご** の音に分けられて、
- その順番もわかり、**会話の「ことば」が「こ・と・ば（50音）」の集まり**だと分かってきます。



「音韻意識」は どの時期にのびるの？

専門機関での研究結果

聴能言語学研究10-18(25001:原恵子)等

「逆さま言葉」が言えるかどうかで
音韻意識を検査しました。

(5問中3問正解で合格としました)

- ・ 年長さんの時期に音韻意識が急激に発達します。
- ・ 入学時点で3文字の「逆さま言葉」の合格率は85%以上

・ 音韻意識が育ったから
7歳になる年に就学する
のです。



- 「音韻意識」は“**普段の会話さえできれば自然と身につく**”
というものではなく、音韻の言葉遊びを通して身につくのです。



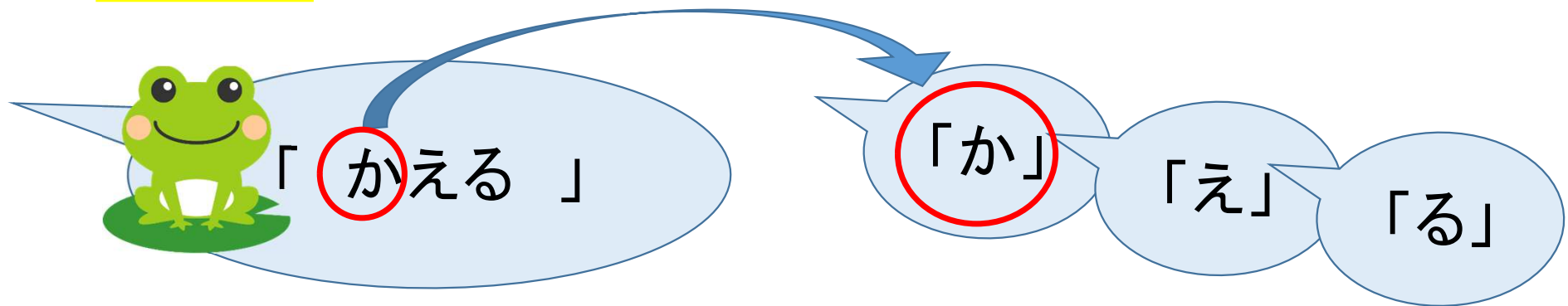
資料参照: 子どもの遊びポータルサイト ミックスじゅーちゅ

- 私たちの世代では、周囲の大人や年長児との言葉遊びを沢山することで身につけていました。



「音韻意識」が育つことで

- 「かえる」という言葉を聞いた時に、**か** **え** **る** と順番に分けれるようになり、



- 「かえるの「か」」と「いるかの「か」」が同じものだとなんて分かってきます。

「音の言葉」 → 「文字言葉」が
正しくつながります。

- やがて、文字（50音）を習うことで、
- 「かえるの 「か」 」といわれて、
- 「かえる」の最初の文字が か であることを理解して、
正しく書くことが出来るのです。



「音韻意識」が育っている事で、

「かえる」

かえる

「言葉の意味」=「ひらがなの塊」=「文字言葉」
として、記憶しているのです。



かえる
が
うたう。

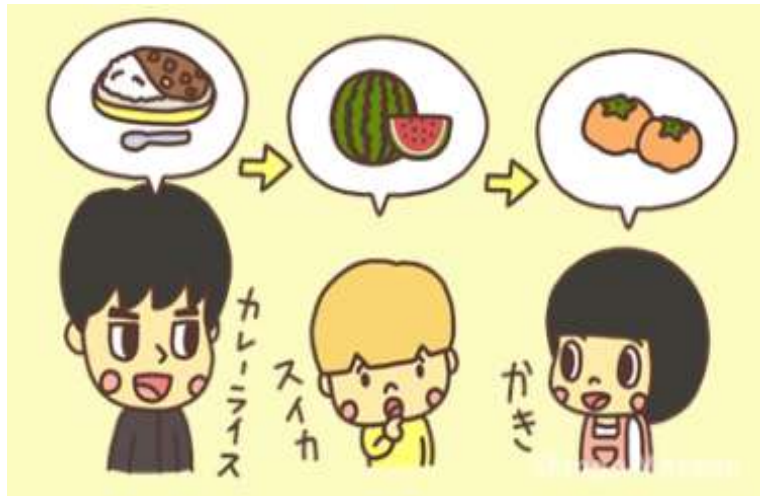
「文字言葉」を「ひらがなの塊」
に分けて読むことで、
読みながら意味も分かるのです。



音韻意識を育てるのはどうしたらいいの？

私たちの子ども時代に楽しんだように、
言葉遊びをたくさん楽しんで頂ければ良いのです。

しりとり



資料参照: 子どもの遊びポータルサイト ミックスじゅーちゅ

じゃんけんグリコゲーム



資料: 子どもの遊びポータルサイト ミックスじゅーちゅ



それぞれのお子様の育ちには、
それぞれのペースがあります。

「音韻意識」に関しても「子どもの育ち」
なので、どの子も同じペースで育つ
ものではありませんが、

「音韻意識」を育てるために
「音韻意識」が育つ言葉遊びを、
今日からでも始めませんか♡。

学校のお勉強が楽しくなる
大切な「育ち」ですから♡

最後まで聞いていただいて、有り難うございました。



• 参考文献・論文

- 就学前から1年生のひらがなの土台づくり(深川美也子 2021)
- 幼児の音韻意識の発達とひらがな読み習得の関係(深川美也2017)
- 健常児における音韻意識の発達(原 恵 子 2001)
- 小学生の読みにおける音韻処理の発達の变化 ―語彙判断・押韻判断における脳処理からの検討―(佐藤 裕, 山根 直人)
- 問いから始める発達心理学(坂上裕子 2014)
- 文部科学省 新学習指導要領解説 H29
- 挿絵 いらすとや 他